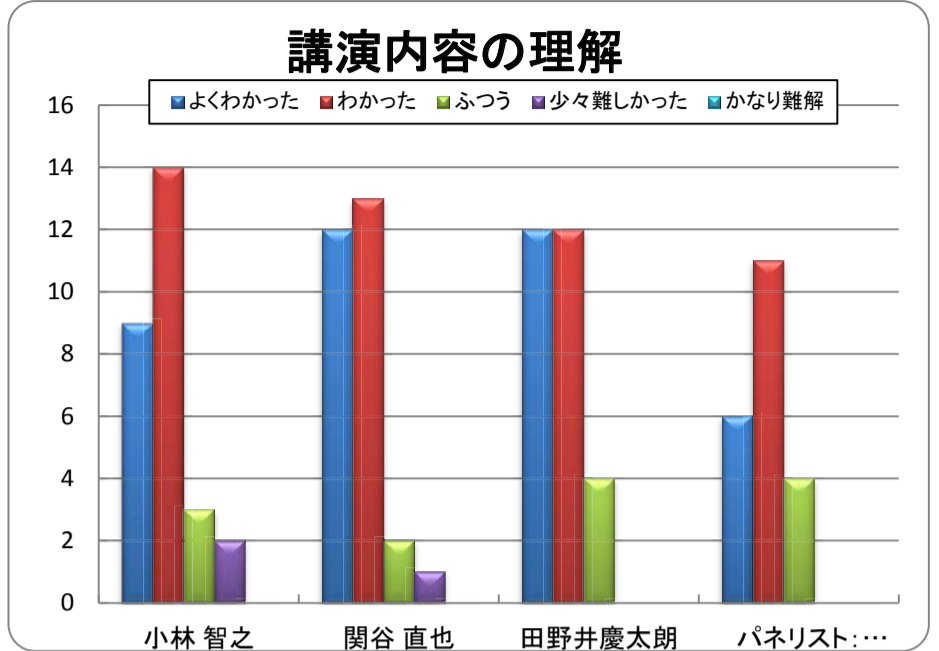
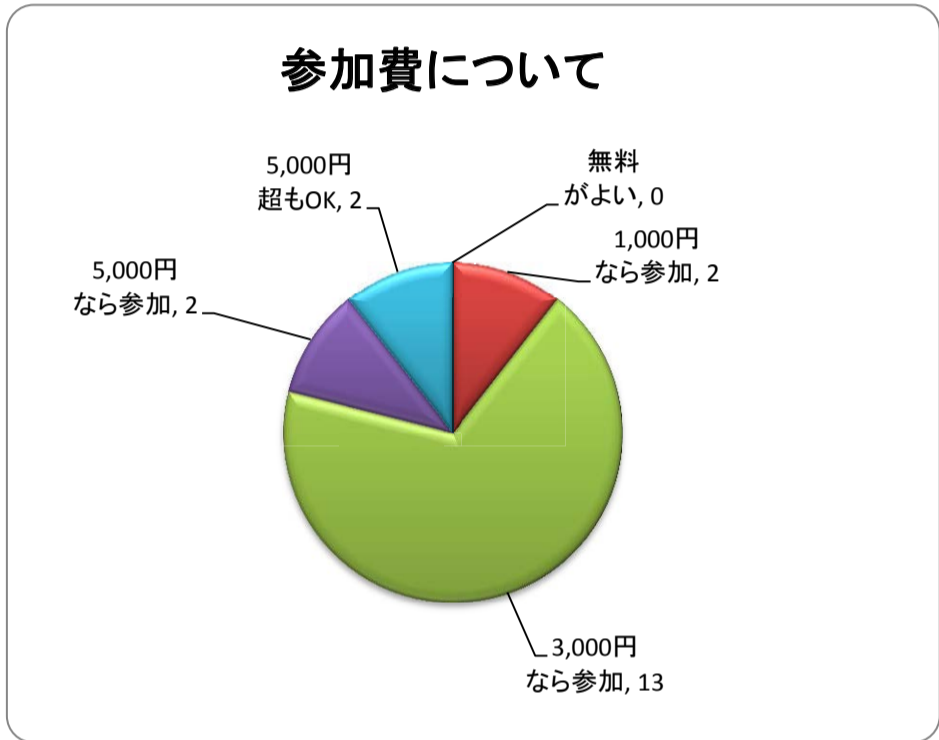


No.	テーマ	講師	よくわかった	わかった	ふつう	少々難しかった	かなり難解
1	住民とのリスクコミュニケーション:	小林 智之	9	14	3	2	0
2	原子力事故後の風評被害のメカニズムと8年目の対策	関谷 直也	12	13	2	1	0
3	食品中の放射能汚染の現状は? 検査結果を確認しよう。	田野井慶太郎	12	12	4	0	0
4	パネル・ディスカッション: 『食の放射能汚染のリスクのあり方、風評被害にどう立ち向かうか』	パネリスト: 講師3名 石川一 進行:山崎	6	11	4	0	0

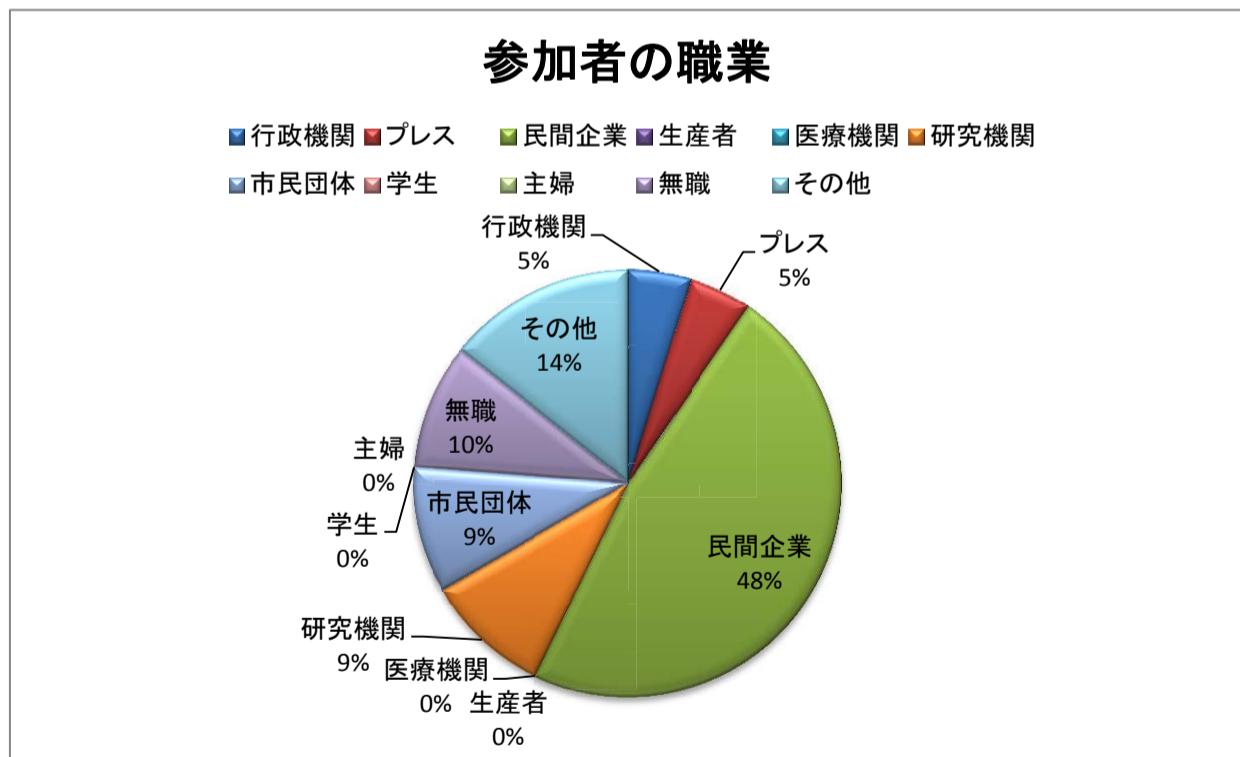


	無料がよい	1,000円 なら参加	3,000円 なら参加	5,000円 なら参加	5,000円 超もOK
今回のフォーラムの参加費(NPOへの賛助)についてどう思われますか?	0	2	13	2	2
今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。	(別紙)				
今後、食の安全・安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか?	(別紙)				
食の放射能汚染のリスクのあり方、風評被害にどう立ち向かうか、についてご意見ください。	(別紙)				
当NPOから季刊誌を発行しておりますが、無料購読を希望される方はあて先(郵便番号・住所・氏名・所属機関等)をご記入ください。	(別紙)				
当NPOからメルマガ(ご案内メール)を不定期に発行しております。無料購読を希望の方はメールアドレスをご記入ください。	(別紙)				



職業

行政機関	1
プレス	1
民間企業	10
生産者	0
医療機関	0
研究機関	2
市民団体	2
学生	0
主婦	0
無職	2
その他	3



1	住民とのリスクコミュニケーション:	小林 智之
1	伝え方の大切さ、わかりやすく感じました。	
2	認知処理の流暢さのご説明が勉強になった。	
3	「リスク」格差が広がるばかりではないかと不安に思った。	
5	とてもシンプルでわかりやすかった。もう少し具体的な活動をお聞きできる機会があればと思いました。	
6	大変参考になりました。講義で活用できると思います。	
7	親しみを感じる話し方だった。	
9	心理学の勉強になる内容でした。	
11	ロシアの大統領が「プーチン」じゃなく「ゴロフキン」だったら？名前が可愛すぎ。「ラプロフ」も「ボルコフ」ですね。大変おもしろいと思いました。	
12	そもそもコミュニケの取り方を再認識させられた内容であった。	
13	今後の生活で対人関係を良好にするのに役立つ。	
14	手法としては興味深い、実際のリスコミの際にいかに使っていきけるかが難しい。	
15	今までにないリスコミのあり方で勉強になった。	
16	事実以外の要素で、ヒトの認識に差が出るのが理解できました。考え方によっては、リスクの印象が操作するという事なので、しっかり情報を見極めたい。	
21	判り易く、好感を持たれるような説明(話し方)は大事ですね。	
23	少し難しかった。	
25	理論的には理解できたと思います。	
27	今回に限って言えば、教科書的な内容も多かったと感じた。	
28	リスクコミュニケーションにおける感情ヒューリテックは興味有の話でした。	

2	原子力事故後の風評被害のメカニズムと8年目の対策	関谷 直也
1	「事実を伝える」「しっかりと理解する」事が大事だという事を理解しました。	
2	事実を知らせていくことの重要性を感じました。	
3	「風評被害」という言葉の歴史はよくわかったが、事件(事故)の化学を見ていない「社会」というのはなんだろうか。検査の歴史を見つめてほしいと思う。	
5	コミュニケーションの目的の大切さをあらためて確認しました。流通構造の変化に関しては、生産者の減少に危機感を持ちました。今も様々な災害があり、その度に長期的な被害が生まれると思う。	
6	産業構造への対策が必要ということですが、具体的には難しいようですね。	
7	研究に熱意を感じた。	
9	流通の問題は、1からのつくり上げになるので、震災前というのはいないのだと思います。	
11	①業界再編、②何度も言う(speak up)が大事かと思っています。	
12	中食業界でも品質保証取組のRIはしているが、所詮コンビニ食品との認識で、一般に広く知れ渡ってはいない。(課題として感じている)	
13	説得力のある説明で理解を深めた。	
14	正確な情報の必要性は理解できるが、現在の福島県産品の回復はそれによってなされるのか疑問を持っている。全量全袋検査は県内一律で変更されるものではなかったのではないかと。	
15	・NDの認知率は誰のせいかな。 ・まず、この国のメディアは最低だ。	
16	風評被害というものが、なんたるかを知ることができました。事故度に「食品が安全」と認識されても、状況が回復する問題ではないことが勉強になりました。流通の問題は重要だと感じました。	
21	風評被害の意味を考える良い機会でした。	
23	復興の道はまだ遠いと感じた。福島県民以外の人達の理解とリスコミの必要性を感じた。	
25	現実に直面した話で、非常に難しい問題なのかと思いました。	
27	課題から提言があり、とても参考になった。	
28	一般消費者の不安を取り除く方法が出てくると有難いです。	

3	食品中の放射能汚染の現状は？ 検査結果を確認しよう。	田野井慶太郎
1	熱い思いに感動しました。	
2	資料に書いていないお話の部分が楽しかった。	
3	カリウム施肥が万能ではなく、害となった事例を知らないのだろうか。	
5	検査データのグラフがわかりやすく、又なぜ、そのような結果が出ているかの考察もわかりやすかったです。	
6	わかりやすいお話で、大変参考になりました。	
7	理解しやすかった。	
9	林産物・海産物の数値が一部高いとなかなか輸入してくれないですね。	
11	野菜・果物を多く食べる人は体内被曝が多いのですか？Csの増加分が個人差の中に入ることが知られるなら、安心情報かも。	
12	加工食品として食材調達時の放射能汚染の現状が理解できたこと。	
13	判りやすい内容であった。 7年前にこの話を聞いたかった。	
14	「現状」というよりは、発災後2～3年後の状況では？最近の状況も伝えていただきたい。出荷制限と除染で話を止めてしまうと、どのようなステップで制限解除されるか触れては？	
16	数値のデータは非常に重要ではありますが、一つの指標であるとの意識を持つべきだと受け止めました。	
21	最後の関連図書のお話がよかった。	
23	理解できたと思う。最近のWTOの裁定を残念に思う。それに対する対応の方策にも触れてほしかった。	
25	事故当時は数値的にも高かったのだと改めて思いましたが、海外との比較では、それでも高い基準を作っていることも感じました。	
28	勉強になりました。	

4	パネル・ディスカッション：『食の放射能汚染のリスコミのあり方、風評被害にどう立ち向かうか』	パネリスト：講師3名/石川一 進行：山崎
1	踏み込んだご意見有難うございました。 アンケートしたけど、フィードバックされたのが初めてだったのはオドロキです。	
2	「共有認知」「御用役人」のお話がウケました。	
3	興味も関心があるからこそ見守りたいと思う。「食」だけで考えている限界を会場のシニアの方々が理解できていない空気がこわい。	
9	意見が面白かった。	
11	消費者庁の活動がわかりました。それ自体に不備はないと思いました。	
12	消費者庁＝国の食品安全行政、リスクアナリシスの動きについてはBSEの事件から進んでいる事を改めて理解した次第です。	
13	大変良かった。	
14	パネルディスカッションではなく、質疑応答に終始した感が強い。	
15	このような場に参加がなければ、冊子については知りませんでした。	
16	リスコミは総合的に難しい問題だと感じました。国民の多くが理解することと、風評被害がなくなることは”＝”ではないと感じました。	
21	率直で好感。	

5	今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。	
1	明るい雰囲気、気軽に参加出来て良いと思いました。	
2	風評被害の改善はハードルが高いと思います。このようなフォーラムには様々なヒントがありました。しかし、その答えを見つけるには時間がかかりそうです。	
3	「リスコミ」「風評被害」を受取る側の人の声はなくても良い？	
4	今回はじめて参加しました。	
5	楽しかったです。	
6	大変参考になりました。どうもありがとうございます。勤務する学校には福島県出身の学生がけっこうおりますので、放射能汚染の話をどのように伝えるか、大変気をつかいます。今後とも、このようなテーマを継続的に行っていただければ幸いです。	
7	情報の発信者、受信者のそれぞれの立場により、バイアスがかかり、コミュニケーションが複雑化してしまうことが再認識出来た。	
8	時間は経っているが、まだまだ根深い問題。 特に管理をゆるめる方法については難しい。	
9	問題がのこっていても国民の興味がなくなると、リスコミが成り立たないと感じます。	
11	風評対策は関心を正しく上げることだと思います。ただし、1回の正しい発表が決め手になるのではなく、回数だと思います。	
12	社会心理学的観点からの整理ができて良かった(普段、余り深く認識していなかった分野でもあったので)	
14	関係者対象のフォーラムと考えた場合、既知の情報も多い様に思うが、ターゲットは一般向けか？であれば少々敷居が高いか。講演の順序は逆でも良かったのではないかと思います。	
15	個人的には勉強させてもらっています。感謝です。 しかし、一般の消費者として考えると、団体や行政のリスコミはよくわからない、知らないことが多すぎる。広報のし方をもっと考えてほしい。	
16	国民一人ひとりが情報を収集し、精査し、個人の見解をしっかりと持つことが大切だと思いました。	
19	政府リスコミのなかでも、不安に思う人を冷笑するような空気があったように思いました。	
20	情報発信者の見解だけで片手落ちに思う。コミュニケーションなので、被害を被っている側の話を紹介すべきでは？	
21	心理学の先生の話は参考になる。	
23	前半2つの講演は難しかった。	
25	流通との意思疎通のあり方が一番大切な議論かと思っています。	
26	2011年からの振り返りができてよかったです。(規制値の推移)	
28	非常にわかりやすかったと思います。	

6	今後、食の安全・安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか？
2	引き続き風評被害について、より深くテーマをほりさげてほしい。
3	グローバル食品栄養の考え方、環境の中の一部としての食、栄養学と食の安全比較
7	食品表示のあり方について 健康危害に関する表示だけで良いのでは？
9	健康食品、中国産、フリー商品
10	食品添加物
11	「認知バイアス、SNSの利用方法」の体系化、味方のつくり方 WTOでは、どう考えているか。
12	人々の健康志向のズレ(糖質制限の誤ちなど)と客観的事実について
16	ゲノム編集について
20	「健康食品」を！
23	ゲノム編集の食品への応用とリスク
24	食品関係とSDGsのからみ
26	今までのとおり、よろしく願いいたします。

7	食の放射能汚染のリスクのあり方、風評被害にどう立ち向かうか、についてご意見ください。
1	リスクの低減化について理解してくれるメンバーを増やすしかないと思います。
2	未だのこは小学校などです。学校側はモンスターペアレントを恐れているのが根本原因かと感じています。このようなフォーラムに教育委員会の方々にも出席してもらいたい。
3	リスク＝スリコミ、風評被害＝賠償減らし、そう思われているし、そういう一面もある。初動に失った信頼をまずは反省しきれていないのではないか。廃炉作業中である。
4	基準値を決めた理由、それをオーバーした場合の対応、個人がいろいろあるので難しい。
5	引き続き考えていきます。
7	国に与える経済効果、国家間の競争に与える影響の情報をもっと加えてリスクコミュニケーションしても良いではないか。
11	基本的な知見「人体内の放射線」「天然の放射線」「天然の放射線」は何度でも言うこと。(フードファディスト並みにしつこく) 味方を増やす⇒プロガーの養成
12	正直、1企業の動きでは限界あるので、こういう場を通じて、食の安心の観点から事実を知り、どう対処すべきか参考になりました。
14	消費者によるリスクの理解と流通業者による特定産地の製品の取扱いは相関しないのではないか。本日の講演もそういった主旨であったと、とらえている。両者を一つの課題として取り扱うことが適当かが検討されるべきではないか。
16	情報を整理し、きちんと伝えることが重要だと感じました。同時に、きちんと伝わっているかが最重要だと感じました。
20	放射線汚染は食品よりも廃炉作業を含め当事者の責任問題が大きい。BSEでも責任ある当事者の安全宣言のみ(東電政府)であったことが大きい。
21	メディアがもっと立ち上がるべき。
26	地道に続けていくことが大事だと思います。